同窓生シリーズ

65 67

21回生
亀山紀子
かめやまのりこ

◆プロフィール

旧姓花澤。府立六中・新宿高校朝陽同窓会二代目女性副会長。主婦業の傍ら二十有余年にわたり同窓会事務局にかかわる。新宿区在住。ロンドン大学留学中の一女あり。

日本の高等教育力が世界六位と報道された英情報会社が初めて発表した国別世界ランキングによると、一位が米国、以下英、豪、独・加、そして日本と続く。教育に関する様々な要素に社会経済学的な考察を加えた総合評価とのことで、「六位に入った」とあるからこの結果は歓迎されているようだ。折しも、ノーベル物理学賞を受賞した益川敏英氏が文部科学大臣に日本の教育について進言したとのニュースが流れた。曰く、「教育結果熱心な親」、「採点者にとって楽で都合のよい選択式の試験問題では考えることをしなくなり、本来の好奇心が失われてしまう」、「学校が、難問を深く考えるより易しい問題を選ぶよう指導する」、「教育汚染」等々、氏の持論は手厳しい。親としては耳が痛くもあり、また気になるところでもある。と言うのは、留学した娘を通してイギリスの教育事情を垣間見ることで日本との違いを実感し、改めて日本の教育について考えさせられたからである。

イギリスの親たちは、十六歳くらいで子供を大人とみなし、全てを本人に任せる態勢に入る。大学入学は家からの独立であり、学費も「学生ローン」を組み在学中に使った金額を卒業後返済するというケースが多い。親に色々希望があっても、子供がどこで何を学ぼうが、ギャップイヤーで世界を放浪しようが働こうが、本人の意思を尊重する。一旦自分が決めて、自分の学費で大学に通うとなれば勉強するしかない。ひたすら本を読んで、考えて、レポートを書いて、の繰り返しで学期中はハードな生活だが、オンとオフの使い分けが上手で実によく飲み、しゃべり、遊ぶ。もっとも、学生を指導する側は大変ご苦労なことと思う。選択式と違って指導や評価は楽ではない。益川氏のお考えに近い教育がイギリスにはある。

しかし、近い雰囲気が私の在学中の新宿高校にあった気がする。同窓会で出会う六中の先輩方も、時代の特殊性にも関わらず個性的で、リベラルな空気を醸し出しておられた。生徒個々人がパワフルで自立心に富み、先生方も生徒の未熟な自我を大目に見て下さったと思う。――ちょっと難しい所を受けたいのですが。――はい、受けるのは自由です。と、わずか一分で済んだ自分の進路指導を思い出すと可笑しい。子供に苦労させたくないのが親の心情ではあるが、環境を整え、道を引き、手取り足取り、至れり尽くせり…では子供が元々持っている意欲や決断力を削いでしまう。今、急激なグローバリゼーションの歪みから世界は混迷を極めている。こんな時こそ若い人たちには人柄、正義感、礼儀など人間の本質に立ち返り、自分を確立して頂きたい。そのためには大いに他者とダイレクトに語り、聞き、感じることが肝要である。特に、異世代の人々との交流から、聡明な若者は多くを学ぶだろう。そんな場の一つとして同窓会があることを覚えていてほしい。